

| | | | | | | | |
|----------|----|---|-----|-----|-----|-----|---|
| 保護者への説明等 | 12 | 保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング*4等）が行われているか | 32% | 26% | 21% | 21% | ・お話をする中で指導があったかも。 ・活動は見学しているが、ペアトは受けたか分からない。 →事業所の課題として、保護者様への支援が不足していると考えています。今後の課題として改善して参ります。進展あり次第発信致します。 |
| | 13 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか | 91% | 3% | 3% | 3% | ・活動後にお話する時間があり共通理解できている。 ・誰が相談窓口が分からない。 →青山スタジオ、白山スタジオでの職員配置が固定化されていない為、相談が毎回できる環境を用意できていない点は課題と考えております。改善に向け検討して参ります。 |
| | 14 | 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか | 85% | 0% | 15% | 0% | ・定期的に面談して下さい。 |
| | 15 | 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか | 10% | 10% | 50% | 30% | ・今の所交流はありません。 ・コロナ禍の為開催は難しかったのではないかと。 ・機会があれば参加したい。 →12番の項目同様に、保護者様への相談支援やSPARK運動療育の重要性の周知など、不足している為、今後改善に取り組んで参ります。 |
| | 16 | 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか | 86% | 7% | 7% | 0% | ・小学校入学にあたり、不安な部分の相談など対応して頂きありがたかった。 |
| | 17 | 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか | 86% | 7% | 7% | 0% | |
| | 18 | 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか | 78% | 10% | 6% | 6% | ・スパーク便りで伝達出来ていると思います。 ・見たことがありません。 →改めてHPの案内させて頂きます。 |
| | 19 | 個人情報の取り扱いに十分注意されているか | 95% | 0% | 0% | 5% | |
| 非常時等の対応 | 20 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。 | 35% | 20% | 10% | 35% | ・訓練など見たことない。 →21番項目同様に、マニュアルや訓練の実施状況の周知出来ない為、スタジオ内での回覧やスパーク便りでの周知して参ります。 |
| | 21 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか | 36% | 3% | 3% | 58% | |
| 満足度 | 22 | 子どもは通所を楽しみにしているか | 98% | 2% | 0% | 0% | ・毎週楽しみにしています。 ・毎週来る日が待ち遠しいようです。 |
| | 23 | 事業所の支援に満足しているか | 92% | 8% | 0% | 0% | ・親身になって話を聞いていただき感謝しています。・雨の日でも祝日でも体を動かす事ができ、子どもも楽しそうだった。22.23→嬉しいお言葉頂きありがとうございます。よりよい事業所目指し今後共精進して参ります。今後共宜しくお願致します。 |

*1 「本人にわかりやすく構造化された環境」は、この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすることです。

*2 「児童発達支援」は、児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成します。

*3 「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。子どもの障がいの特性や課題等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。

*4 「ペアレント・トレーニング」は、保護者が子どもの行動を観察して障がいの特性を理解したり、障がいの特性を踏まえた褒め方等を学ぶことにより、子どもが適切な行動を獲得することを目標とします。